

新県立図書館整備計画

平成 20 年 9 月

山梨県

新県立図書館整備計画 目次

はじめに.....	1
新県立図書館の特徴	2
1 新県立図書館建設にあたっての基本方針	
1-1 新県立図書館が目指す図書館像	
(1) 新県立図書館のあり方	3
(2) 基本コンセプト	3
1-2 新県立図書館像の実現に向けての方針	
1-2-1 機能・個性	
(1) 機能・役割	4
(2) 備えるべき個性 = 「山梨らしさ」	4
(3) 子ども読書支援	5
1-2-2 人材、運営、利用者サービス、評価	
(1) 人材	5
(2) 運営	5
(3) 利用者サービス	5
(4) 評価	5
1-2-3 新県立図書館の施設、設備	
(1) 施設	5
(2) 設備	6
(3) 活用	6
1-2-4 新県立図書館の建設地	6
2 新県立図書館のサービス・運営計画	
2-1 サービス	
(1) 基礎	8
(2) 応用	10
(3) 展開	11
2-2 サービスを支える資料整備	
(1) 収集・保存方針	13
(2) 特別コレクション = 個性の発信	15
2-3 サービスを支える情報システム整備	
(1) 情報システム整備の方針	17
(2) 情報サービス機能	18
(3) ネットワーク機能	20
(4) 保守体制	21
2-4 サービスを支える管理運営	
(1) 管理運営の方針	22

(2) 業務の効率化等の推進	23
(3) 県民参加の促進	23
(4) サービスの自己評価	23
3 新県立図書館の施設概要	
3-1 施設の構成と規模	
(1) エリア・スペースの構成及び相互関係	24
(2) 各エリアの所要規模	26
4 新県立図書館の整備日程	27
5 建設地の概要	28
6 現県立図書館及び他県立図書館の状況	
6-1 山梨県立図書館の現状	29
6-2 全国の県立図書館の状況	32
6-3 人口類似県の状況	33
6-4 最近の新築県立図書館の状況	34

はじめに

現在の県立図書館は昭和45年に建てられて以来、40年近く山梨県の図書館の中核として、県民の皆様に広く活用され親しまれています。

しかしながら、施設や設備は老朽化が進み、資料の保存スペースなども狭くなっており、地震に備えるための耐震性も低い状況です。

一方、情報通信技術のめざましい発展による高度情報社会を迎え、利用者が図書館に求める機能は、多様化・専門化し、図書館は大きな環境の変化に直面しています。

こうした現状や時代の変化を受けて、県立図書館が果たすべき役割や機能を見直し、新しい時代にふさわしい新県立図書館の整備が重要な課題となっています。

このため県では、新県立図書館のあり方などを検討し整理するために、平成19年5月に新県立図書館整備検討委員会を設置しました。

委員会は、昨年5月から8回の会合を開催したほか、8月に県民フォーラムを県内2か所で開催し、広く県民意見を聴き、新しい県立図書館のあり方や役割と機能、管理運営などの新県立図書館整備に必要な議論を幅広く行いました。そして、平成20年1月24日に、これらをまとめた「新県立図書館整備に関する報告」を知事に提出しました。

この中で、「すべての県民に親しまれ、県民とともに成長・発展していく図書館を目指すべき」という観点から、新県立図書館のあり方について「山梨県民図書館の構築」とし、新しい県立図書館の役割機能として、県民が日常的に利用する知的基盤であるとともに、山梨に関する情報を県内外に発信する情報発信拠点であると提言しています。

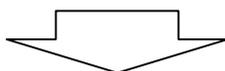
また、報告で建設に適した場所であるとされた JR 甲府駅北口県有地は、全体を「高度情報エリア」として地域の活性化と本県産業の振興に資するよう整備する方針であり、新県立図書館は、その持つ様々な情報を幅広く提供することにより、県民、企業等の多様な活動を支援するという役割を有します。

この整備計画は、整備検討委員会の報告を踏まえて、新しい県立図書館に求められる役割や機能を果たしていくためのサービスや運営の考え、建物の規模等を示したものであり、内容の検討にあたっては、パブリックコメントによって県民の皆様のご意見をうかがってきました。

今後、この整備計画を基にして設計、建設工事、開館準備に取り組んでいきます。

新県立図書館の特徴

基本理念	山梨県民図書館の構築 「山梨らしさ」を有する図書館	すべての県民に親しまれ、県民とともに 成長・発展していく図書館
基本 コンセプト	すべての県民のための図書館 県民が創造する図書館 開かれた図書館	成長する図書館 県民の活動を支える図書館 山梨の文化を支え、創造する図書館



〈主な役割、機能、サービス〉

資料の収集・保存の充実、積極的な提供
 レファレンスサービス、市町村立図書館支援・連携の強化
 多様なメディアの取り込み・提供、情報システムの強化
 大学、企業等外部との連携・協働
 県民の活動への支援、交流の拠点(地域活性化、にぎわいの創出)
 地域情報の収集・発信
 子ども読書支援、読書推進
 行政資料提供・政策立案支援

特徴 山梨らしさ 《山梨の学び日本一》

山梨の文化の発展を図る中心的な存在として位置づける
 山梨を学ぶ場所であり、山梨の入口となるテーマを備える
 グローバル化の中にあって、歴史に裏打ちされた山梨の文化を継承し、支え、発展させる
 自分の住む地域「山梨」へ目を向け、学び、理解し、発信するとともに
 地域の課題を解決することができる人を育てることが重要
 新県立図書館は、山梨の知識・文化の拠点として「山梨の学び日本一」を目指す

〈地域学の殿堂〉

- 山梨という地域について学ぶ人にとって、地域学の殿堂となることを目指す -

〈山梨の情報発信拠点〉

- 本県らしい素材 = テーマを取り上げ、山梨の個性を国内外に発信する -

1 新県立図書館整備にあたっての基本方針

1-1 新県立図書館が目指す図書館像

(1) 新県立図書館のあり方

県立図書館は、誰もが気軽に利用できる施設として

- ・すべての県民に等しくサービスを提供
- ・県民の学習と文化の発展に寄与
- ・地域の活性化や産業の振興に役立つ知的・文化的な基盤

県民による創造

- ・県民が積極的に活用する図書館
- ・県民によって時代の変化に即したものと発展していく図書館

県民に親しまれ、県民とともに成長・発展していく図書館を目指す。



(2) 基本コンセプト

「山梨県民図書館の構築」を具体化するための基礎となる考え方を、次の6つの基本コンセプトとしてまとめた。

すべての県民のための図書館

- ・誰でもが利用できて、また、特定の分野に偏らないで、知識や情報を得たいと考えているすべての県民の要求に応えられる図書館
- ・県民の日々の仕事や生活に役立つことができ、暮らしと心を豊かにする図書館

県民が創造する図書館

- ・県民が進んで利用して、主体的に図書館と関わることを通じて、図書館の持つ意義や可能性を見出し、あるべき姿を創り出していく図書館

開かれた図書館

- ・知識や情報の世界への入口として、誰もが親しみを感じ、気軽に利用することができる図書館

成長する図書館

- ・県民の学びの場として求められる機能やサービスを新たに見出し、持続的に改善を続け、発展し、新しい試みに挑戦して成長していく図書館
- ・山梨県の中核的図書館として、他の図書館との連携により、県内図書館をリードし、元気にしていく図書館

県民の活動を支える図書館

- ・図書館での学びを通して、人々が集まり、語り合うことができる、様々な出会いと交流の舞台となる図書館

山梨の文化を支え、創造する図書館

- ・社会のグローバル化の中で、山梨という地域を埋没させず、歴史に裏打ちされた山梨の文化を継承し、支え、発展させていく図書館
- ・山梨の学びを通じて、県民のアイデンティティを育み、地域に輝きをもたらす図書館

1-2 新県立図書館像の実現に向けての方針

目指す図書館像を実現するために、図書館の機能や個性、人材、運営、施設・設備についての方針を次のとおりとする。

1-2-1 機能・個性

(1) 機能・役割

新しい県立図書館の機能と役割は、段階的に発展していくそのサービスの内容から、「基礎」、「応用」、「展開」に分けて次のように考える。

基礎 県立図書館としての基本的機能の充実

- ・資料の収集・保存・提供の強化
- ・レファレンスサービス¹の充実
- ・市町村立図書館支援・連携の充実

応用 新しい時代に対応した「山梨らしさ」のある図書館

- ・収集する資料や発信する情報内容に「山梨らしさ」を追求
- ・大学や企業などの外部機関との連携・協力
- ・音響・映像資料やデジタル情報など、多様なメディアの取り込み

展開 多様な支援機能拡大、交流の拠点

- ・子どもの読書支援と読書推進システムの構築
- ・外部機関や、県民の活動への支援
- ・さまざまな交流の拠点
- ・行政資料提供・行政支援

(2) 備えるべき個性 = 「山梨らしさ」

山梨県立図書館として備えるべき個性 (= 山梨らしさ) は次のとおりである。

地域学の殿堂

山梨という地域について学ぶ人にとって、地域学の殿堂となることを目指す。

情報発信拠点

山梨らしいテーマ性を持った図書館として、山梨の個性を国内外に発信する。

例えば、「ワイン」を山梨からイメージされる重要なテーマとして取り上げ、幅広い情報の蓄積とその編集や発信を積極的に行い、「ワイン文化創造のポータルセンター (= 山梨のワイン文化の情報発信拠点)」とすることが考えられる。

¹ 図書館職員が資料や情報を提供する調査相談の援助サービス

(3) 子ども読書支援

子どもたちの活字離れが懸念される中で、社会全体で子どもの読書活動を推進していくことが必要とされている。特に、図書館は読書推進の拠点であり、次代を担う子どもたちの読書推進は、図書館の重要な役割の一つと位置づけられている。このため、新県立図書館には読書推進の拠点となる「子ども読書支援センター」を設置する。「子ども読書支援センター」は、県内の子どもの読書活動の推進を図るために、読書推進プログラムの開発や、情報提供、研修機会の提供などを通じた人材育成などにより、子どもの読書活動に携わる人及び子どもの読書活動を行う機関・団体に対する支援を行う。

1-2-2 人材、運営、利用者サービス、評価

(1) 人 材

県立図書館のサービスを拡充していくためには、多種多様な人材を確保するとともに、サービスを適時的確に提供するための、意欲と能力を備えた人材を育成することが必要となる。

(2) 運 営

運営は県が直接行うことを基本として、目的・内容に応じてその分野で優れたノウハウを有する企業やグループなどに企画・運営を委ねるなど、民間との連携を進める必要がある。

(3) 利用者サービス

利用者のニーズに即した弾力的な管理・運営方法による、充実した利用者サービスを提供する。

(4) 評 価

図書館サービスの充実・向上に向けて目標・目的を明確にして、定期的に活動の評価し、改善を進める。

1-2-3 新県立図書館の施設、設備

(1) 施 設

- ・ 景観とのバランスに配慮しながら、県立図書館の存在をアピールする工夫をする。
- ・ 変化していく時代や、県民ニーズに応じて、柔軟な使い方ができる施設となるよう設計する。
- ・ ユニバーサルデザインの考え方を取り入れる。
- ・ 省エネルギー、省資源等の環境に配慮した建築とする。
- ・ 資料展示やセミナーなどの催しを開催するスペースは、オープンな作りにして、誰でもが様々に活用できるようにする。
- ・ 調査や研究、読書などにじっくり取り組むための「静けさ」を保つスペースを確保する。

- ・多くの人が交流し、にぎわいを生み出すスペースを作る。
- ・収納効率が高い書庫を実現するため、集密書架²などの導入を検討する。

(2) 設 備

- ・インターネット端末や映像機器を配置したメディアスペースを充実させる。
- ・利用方法に応じてタイプを分けながら自習スペースを確保する。
- ・図書館サービスの高度化・効率化を進め、利用者の利便性向上が図られる、ＩＣタグ³や自動貸出機などの新しい技術の導入を検討する。

(3) 活 用

- ・施設や設備は、柔軟性・弾力性をもってさまざまな活用ができるように運用を検討する。
- ・施設の有効活用のため、タイムシェアリング⁴の考え方を取り入れられるようレイアウトや運営上の工夫を行う。

1-2-4 新県立図書館の建設地

新県立図書館は、県民の知的活動やその成果を支える基盤として、「人を育て、産業の振興と地域の活性化を支える役割」、「山梨に関する情報を県内外に発信する拠点としての役割」を求められている。県民が日常的に利用する施設として、こうした役割を果たすためには、多くの人が集まりやすく、公共交通機関が集中している場所にあることが重要である。

また、現在の県立図書館は、老朽化して機能的にも不足な点が多いことから、早急な建て替えが必要であり、早期に建設に着手できる既存の県有地を活用することが望ましい。こうしたことから甲府市の中心市街地であり、JR 甲府駅に近い北口県有地が新図書館の建設地として適地である。

² 移動式書架

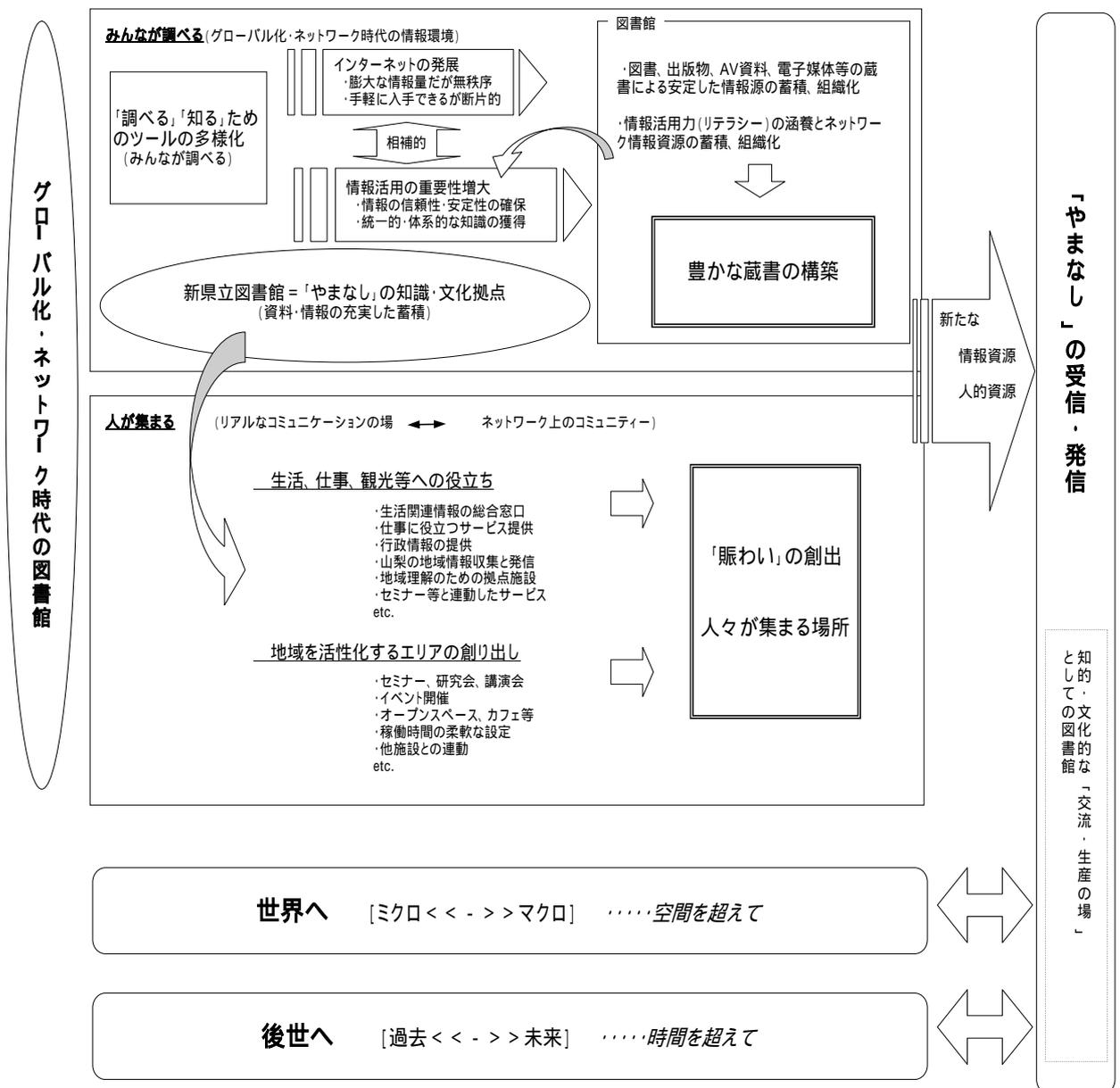
³ 無線チップを内蔵した微少なタグ（荷札） 搭載されたチップに情報を保存することができる

⁴ ひとつの施設を利用時間帯に応じて別の目的に利用しようという考え方

2 新県立図書館のサービス・運営計画

地域が世界と直接結びつく現代のグローバル化の中であって、図書館には地域を埋没させず地域の文化を継承し、発展させていくために多様な情報を収集・保存（情報の受信）し、それらを高度かつ統一的に伝達していく（情報の発信：同時代への空間軸のひろがり、子や孫への時間軸のひろがり）ことが求められる。（図2-1）

このように図書館は文化を支える施設として、広がりや厚みのある文化の発信拠点となるサービスや運営が必要とされている。以下に新県立図書館のサービス、それを支える資料整備・保存、情報システム、管理運営について「1 新県立図書館建設にあたっての基本方針」を踏まえてまとめる。



【図2-1】 グローバル化・ネットワーク時代にあつての新県立図書館

2-1 サービス

基本方針であげた機能の「基礎」、「応用」、「展開」に沿った、新県立図書館の取り組みは次のとおりである。

(1) 基礎

収集・保存・提供

【視 点】

- ▶誰もが利用できるように幅広い分野で多くの資料を収集・保存・提供
- ▶「山梨らしさ」に関連する資料は、重点的に収集・保存・提供
- ▶市町村立図書館、大学図書館等との連携推進
 - ・県立図書館> 県民の学びの拡がりに応える図書館
 - ・市町村立図書館> 地域住民の身近な課題に応える図書館
 - ・大学図書館> 学術研究に重点をおいた図書館
- ▶県民のための情報拠点としての機能を強化

【取り組みの具体例】

- ◆購入資料の充実（冊数、分野、範囲）
- ◆長期保存の視点に立った資料保存センター機能の強化
- ◆山梨県に関する資料の収集強化
- ◆貴重資料の保存環境の整備
- ◆紙資料（文字・活字資料）の収集・整備の拡充

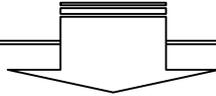
- ◆ICT（情報通信技術）を活用した各種サービスの高度化、効率化の推進
- ◆子育て、医療など暮らしや仕事に役立つサービス
- ◆アクセス可能な外部データベースの充実と利用者への開放
- ◆無線 LAN アクセス環境の整備等、インターネット利用環境の充実
- ◆ホームページからの個別情報提供機能（予約、貸出状況照会、新着情報提供サービスなど）の拡大

- ◆市町村立図書館で県立図書館の資料が利用できる仕組みの拡大
- ◆高齢者、障害者、外国人、乳幼児を連れた人などすべての人が利用しやすいような運営面、施設面での配慮（ユニバーサルデザイン）
- ◆来館利用が困難な方への宅配便サービスなど各種付加的サービスの検討
- ◆子どもの読書推進、レファレンス支援、図書館運営など様々な面でのボランティアとの協力
- ◆県外の図書館や大学図書館等からの資料の入手、提供サービス等の相互連携の充実

レファレンスサービス

【視 点】

- ▶レファレンスサービスの一層の充実
- ▶レファレンスサービスという機能の周知



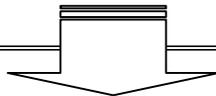
【取り組みの具体例】

- ◆レファレンスのための人材育成や確保
- ◆高校、大学、企業、各種団体とのネットワーク構築
- ◆ホームページや ICT 技術を活用したレファレンス機能の拡大
- ◆レファレンスデータベースの充実
- ◆教員や研究者等、各分野の専門家と協力したパスファインダー⁵の作成、充実
- ◆小中学生や高校生を対象とし、パスファインダー活用の「調べ方教室」の実施
- ◆購入資料の充実（冊数、分野、範囲）
- ◆資料の紹介のデータベース化
- ◆IC タグの活用

市町村立図書館支援

【視 点】

- ▶市町村立図書館への支援強化



【取り組みの具体例】

- ◆相互貸借システム（総合目録ネットワークシステム、物流システム）の維持、改善
- ◆情報ネットワークなどを利用したレファレンスサービスへの支援強化
- ◆読書推進プログラムの企画開発及び研修、実践等を通じた市町村への提供
- ◆県立図書館を中心にした資料保存体制の維持
- ◆研修・運営支援などによる人材育成

⁵ 利用者が文献などを調べるための手引き、調べ方の案内

(2) 応用

「山梨らしさ」の追求

【視 点】

- 「山梨の学び日本一」を目指し、山梨に関わる資料を重点的に収集
- 「山梨らしさ」を県内外に発信する企画の実施



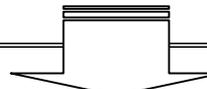
【取り組みの具体例】

- ◆ 地域資料の網羅的収集、提供
- ◆ 山梨県内の種々の情報を収集、提供
- ◆ 山梨に関係する様々なことについてセミナーや企画展などの開催
- ◆ ICT 活用による地域の情報ポータルセンターとして地域活性化を支援
- ◆ 蓄積した資料や情報、新たに生み出された情報による山梨らしさの発信

外部との連携

【視 点】

- 大学、企業等と連携・協力し、図書館資料を有効に活用した活動の実施



【取り組みの具体例】

- ◆ 大学、企業等と連携・協力し、協働イベント、タイアップ講座の開催
- ◆ 県内図書館の連携協力事業を促進するコンソーシアム⁶の構築
- ◆ 共同企画展示の実施
- ◆ 読書推進プログラムの共同開発
- ◆ 県立図書館からの専門機関の紹介、仲介サービスの強化

⁶ 資源の共有を基礎に共同で事業を行う連合組織

映像・音響資料など多様なメディアの取り込み

【視 点】

- ▶映像・音響資料等多様なメディアの取り込み
- ▶貴重資料を中心にデジタルアーカイブ⁷の計画的な作成・公開

【取り組みの具体例】

- ◆同一テーマについて多様なメディアを集めた企画展などによる提供
例：時事の話題など特定テーマ（例えば「桜」「恐竜」「踊り」等）について、本や資料、DVD、CD等の映像・音響、写真など多様なメディアで取り上げる。
- ◆映像資料とその関連文献の提供
例：映像資料の扱うテーマや時代背景等、関連する事柄を扱った図書のリストアップと紹介
- ◆貴重資料のデジタル化による提供
- ◆電子書籍のオンライン利用など、デジタルメディアの図書館からの提供の検討
- ◆テープ、フィルム、CD、DVD、オンライン情報など新旧の映像・音響資料を使った上映会やセミナーの開催、学校教材としての活用
- ◆テープ、レコードなどの消滅する恐れのある媒体に対する再生手段の確保、媒体変換、デジタルアーカイブ等による保存
- ◆地元新聞社、放送局等との連携（映像コンテンツの収集や活用など）
- ◆デジタル加工やマルチメディア編集による情報発信の支援
- ◆所蔵する映像資料や音声資料、マルチメディア教材などの公開

(3) 展開

読書推進システムの構築

【視 点】

- ▶読書推進の研究、実践

【取り組みの具体例】

- ◆子どもの読書を推進する人材育成や、プログラム開発など、支援環境の整備を行う「子ども読書支援センター」の設置
- ◆子どもの読書スペースの確保と児童サービスの提供
- ◆世代や職業などに応じたブックリストの作成、提供
- ◆行動、場面に合わせたブックリストの作成、提供
例：東京往復の電車の中で読む本、雨の日を読む本 etc.
- ◆ライフスタイルに応じた読書の働きかけのためのプログラムの企画開発

⁷ デジタル技術などを使った資料、情報の電子化による保存、蓄積、提供

外部機関、県民活動支援

【視 点】

- 大学、企業、各種団体等の活動を県立図書館の持つ情報を通じて支援

【取り組みの具体例】

- ◆仕事、子育て、健康、暮らしの中の問題解決など、様々な分野でのイベントに対応した資料選定などへの支援
- ◆活動内容の紹介、イベントの広報など情報提供の拡充
- ◆図書館資料の一括貸出

交流の拠点 = 地域活性化（にぎわいづくり）

【視 点】

- 産業、観光、娯楽など、地域資源に関する情報の収集、提供
- 図書館を通じた新たなコミュニティづくりの支援

【取り組みの具体例】

- ◆運営支援ボランティアの組織化
- ◆活動、交流機会の提供、支援（講座、イベントの開催や、各団体が行うイベントへの資料提供などを通じたコミュニティづくり支援）
- ◆遊び、観光、宿泊、産業、ものづくりなど交流のきっかけとなる情報の提供
- ◆セミナーや講座などを開催する交流スペースにタイムシェアリングの考え方を導入し、柔軟な運営で活用の促進

行政情報提供、行政支援

【視 点】

- 行政資料の収集・提供や議会・行政の調査、政策立案支援のための情報提供

【取り組みの具体例】

- ◆行政資料の収集の充実と行政情報コーナーの設置
- ◆行政支援資料の充実により議会・行政の各種調査、企画立案業務を支援
- ◆議会や行政との情報ネットワークの拡充
- ◆歴史的価値を有する行政文書の受入、保管、提供

2-2 サービスを支える資料整備

(1) 収集・保存方針

2-1 であげたサービスを資料面で支えるためには、より充実した資料の収集と整理、保存及び適切な廃棄による計画的な資料管理が必要となる。

新県立図書館では、次の収集方針により、幅広い分野で多くの資料を収集する。また、収集した資料は適切に保存し、地域資料等で特に劣化の恐れのある貴重な資料については積極的にデジタル化を推進してその活用を図っていく。

図書

図書資料の収集は、あらゆる分野の基本的な資料から専門的な資料に至るまで幅広く選定するため、資料別の収集方針は次のとおりとする。

▶参考図書

- ・各分野で定評のあるもの、また新版
- ・図書目録、書誌（文献目録）及び書誌解題

▶一般書

- ・各分野の解説書、入門書、専門書
- ・各分野の全集、叢書、特に個人全集、選集、著作集
- ・翻刻等基本的な重要文献としての資（史）料、定評のある賞の受賞作品
- ・山梨県と関係の深い姉妹友好都市州・省県に関する図書
- ・山梨の地場産業に関する図書、暮らしや仕事に役立つ図書
- ・県政の課題解決や新しい施策を展開するために必要な図書
- ・社会的に話題となった図書、未所蔵の貴重資料、重要図書の復刻版等

▶児童書

- ・幅広く収集し、子ども読書支援センターの運営にも資するコレクションを構築する。

▶地域資料

- ・山梨に関する資料、山梨県・県内自治体の編集・発行する資料、県人著作資料等
- ・多様な媒体（地図、パンフレット、映像・音響資料、デジタル資料 等）について可能な限り網羅的な収集・保存を目指す。

▶外国語図書

- ・山梨に関するもの、山梨の地場産業に関するもの、ビジネス支援に役立つもの
- ・日本について記した定評のあるもの、日本文学の翻訳図書
- ・日本語訳のある原典、外国人サービス（多文化サービス）用図書等

雑誌

雑誌の収集は、各分野の代表的なもの並びに継続性の高いもの、山梨に関するもの、山梨の地場産業に関するもの、法律・技術・統計等速報性の高い分野のもの、ビジネス支援向けのもを主体とする。

新聞

新聞の収集は、一般的な全国紙、地方紙については県内各紙と近隣の代表的なもの、業界紙は各分野における主要なものとする。また、外国紙は英語紙や県内に居住する外国籍の人に配慮して収集する。

視聴覚資料・電子メディア資料

視聴覚資料及び電子メディア資料の収集は次のとおりとする。

▶映像資料

- ・ DVD、ビデオテープ等による映像作品及び記録
 - 社会的に定評のある作品、各賞受賞作
 - 山梨に関する作品
 - 学校教材、生涯学習に役立つ作品
 - 視覚障害者用録音図書 等
- ・ マイクロフィルム資料
 - 山梨に関する資料、媒体変換された特殊な資料群で各分野の基本資料となるようなもの 等

▶音声資料（CD、録音テープ等の音声作品及び記録）

- ・ 社会的に定評のある作品、各賞受賞作
- ・ 山梨に関する作品
- ・ 学校教材、生涯学習に役立つ作品 等

▶電子メディア（DVD、CD-ROM等パッケージ系メディア）

- ・ データベースを主とした調査研究に役立つ資料
- ・ 電子化された参考図書類
- ・ 山梨に関する作品
- ・ 社会的に定評のある作品、各賞受賞作
- ・ 学校教材、生涯学習に役立つ作品 等

▶電子メディア（ネットワーク系メディア）

- ・ 有料オンラインデータベースの導入
 - 調査研究、調べ学習に役立つ情報を提供しているもの
 - 山梨に関するもの
 - ビジネス支援に役立つ情報を提供しているもの 等
- ・ インターネット情報源の選択的利用と、二次情報の蓄積
 - 山梨に関するもの
 - 調査研究、調べ学習に役立つ情報を提供しているもの
 - ビジネス支援に役立つ情報を提供しているもの 等

大活字本・点字図書

大活字本・点字図書等の収集は次のとおりとする。

▶大活字本

高齢者や視力に障害を持つ人の読書、学習に役立つもの

▶点字図書等

山梨ライトハウス盲人福祉センター（点字図書館）などの専門機関との連携を図りながら収集

(2) 特別コレクション = 個性の発信

一般資料とは別に、特定の主題を設定し、それに関連するあらゆる資料を収集することは、その図書館の個性や文化発信能力を高めることにつながる大切な取り組みである。

新県立図書館は、基本方針に沿って、「地域を学ぶ」、「山梨らしいテーマの発信」を視点とする収集を行い、山梨の文化創造の基盤としていく。

地域を学ぶ = 地域学の殿堂となる山梨の資料の収集
情報発信拠点として山梨の発信

山梨に関連するキーワード

食文化：「ワイン」「ぶどう」「桃」「さくらんぼ」「ほうとう」「ミネラルウォーター」
など

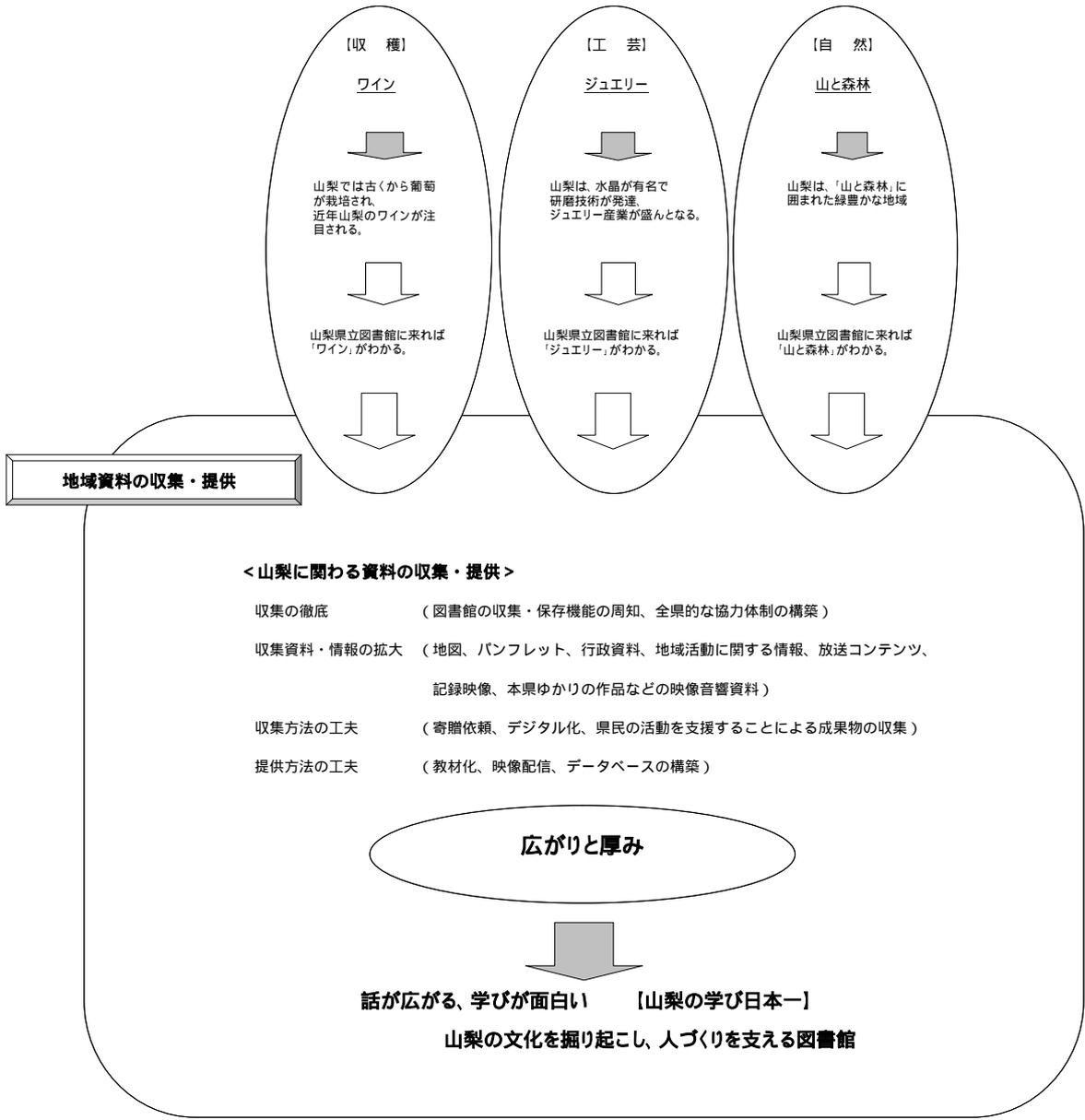
産業：「ジュエリー」「繊維・織物・衣服」「精密機器」「印章」「和紙」など

自然：「山・森林」「富士山」「富士五湖」「盆地」「八ヶ岳」など

歴史：「甲斐国」「武田信玄」「甲府城」など

これらを踏まえた、山梨らしい特別コレクションの収集、提供のイメージは次頁の[図 2-2]のとおりである。

山梨らしい「テーマ」の発信（例示）



[図 2-2] 特別コレクションの収集・提供イメージ

2-3 サービスを支える情報システム整備

(1) 情報システム整備の方針

図書館業務の基盤となる情報システムの整備にあたっては、今後、図書館サービスがデジタル技術やデジタル情報の普及によってさらに広範で高度なものとなることが予測されることから、広く普及している Web（WWW：World Wide Web）を取り入れた利用者・運営者双方にとって使いやすいシステムを構築する。

より充実した図書館情報サービスの提供

▶データベース

- ・新しい図書館サービス計画に沿ったデータベースの構築
- ・既存資料・新資料・特別コレクション等のデータ化
- ・関連施設からのデータもストックできるよう十分な容量を確保

▶アクセス

- ・子どもから高齢者までの年齢層や、障害を持つ人にとって、分かりやすく使いやすいインターフェイス
- ・携帯電話からのアクセスを実現
- ・外国人のための多言語表示を強化

▶資料情報

- ・蔵書検索・リクエスト・貸出予約サービスの充実
- ・館外からも利用者が県内図書館の蔵書検索・リクエスト・貸出予約ができるシステム構築
- ・国立国会図書館や他の公立図書館、大学図書館等の情報への容易なアクセス

▶通信レファレンス

- ・レファレンスデータベース、調査事例集、文献&ツール紹介、リンク集（分野別情報源）メールによる応答等の Web サイトにおけるレファレンス機能を拡大
- ・県内市町村立図書館と協同のレファレンスデータベースを構築

▶連携

- ・博物館や文学館の学術・文化資料、諸団体や研究機関の活動・研究資料等を有効に提供できるようなネットワーク化の推進

速く大きく広がりのある情報システムへの更新

▶汎用性

- ・先進的なシステムへの更新時には、継続性・互換性・拡張性が求められることから、汎用性の高いシステム・機器を採用

▶高速・大容量

- ・館内は光ケーブル等の高速 LAN とし、無線 LAN も併用することでパソコンの配

置変更に容易に対応

- ・サーバの容量を十分に確保し、更新・増設を見越したシステム

▶ネットワーク

- ・県内市町村立図書館、県内外の関連図書館・施設とのネットワークに対応できるシステム

システムと情報の安全性

▶施設と装置

- ・停電や地震・水害等の自然災害に備えて、施設と機器双方に安全性を確保

▶不正侵入防止

- ・サーバ室の管理などハード面でのセキュリティの確保とともに、システムへの不正アクセスやウイルス感染を防止

▶館内の不正使用

- ・館内で生じうる個人情報の漏洩やウイルス感染を防止

▶その他

- ・セキュリティ上の対策・緊急時対応を策定

システムの可変性・拡張性

▶ニーズ

- ・出版や情報環境の変化、生涯学習社会の進展に伴う図書館サービスの拡大、多様化に対応できるシステム、データベースの構成

▶技術

- ・通信技術や情報媒体（DVD・メモリーチップ等）の変化・進歩に対応

(2) 情報サービス機能

図書館は印刷媒体と電子媒体を組み合わせ利用できるハイブリッド型の図書館として、館内での資料や情報の提供だけでなく、パソコンや携帯電話などのモバイルを利用して、インターネットで家庭や職場からも情報・サービスが得られるようにする。館内での情報サービスを充実させて、図書館サービスの可能性をより拡大していく。

基本機能の充実

▶情報検索用端末

- ・OPAC⁸用端末の他にインターネットに接続できる環境の提供

⁸ オンライン蔵書目録

- ・有料データベース等、調査研究やビジネス支援など専門性の高いサービスを強化し、県立図書館の利用価値の拡大

▶ポータルサイト化⁹

- ・県立図書館サイトをポータルサイト化することで、一度アクセスするだけで必要な情報が得られるワンストップサービスを推進
- ・図書情報の確認・予約を実現

▶パスファインダー

- ・利用者が特定の主題やトピックに関する資料や情報を収集する際に、県立図書館が提供できる関連情報、入手手順を系統的にまとめたパスファインダー（道しるべ）を作成・提供

デジタル情報の拡大

▶目録情報

- ・県立図書館及び県内市町村立図書館の蔵書目録をはじめ、他の図書館の書誌情報とのネットワークを強化

▶保存資料のデジタル化

- ・貴重資料のデジタルアーカイブ化により、原資料のより良い状態での保存と利用者からのアクセスを実現
- ・他の施設が所持するデジタルアーカイブとリンクさせサービスの幅を拡大

▶地域の情報

- ・県内の産業、観光、娯楽、行事やニュースをはじめ、生活支援に役立つ地域の情報を収集

ホームページからの情報発信

- ・ホームページ強化により、各種の情報の案内に加えて、発信型の情報提供を推進
Web サイトは情報の玄関口としての機能にとどまらず、電子メールなどを活用することによって、情報の発信機能を強化

▶基本的な情報発信

- ・県立図書館の概要、利用条件や利用規則、開館日や開館時間、主催行事、地図や館内案内図、収集する新聞/雑誌のリスト等を掲載

▶検索システム

- ・Web 上での検索機能と貸出状況の確認、予約を連動
- ・新着資料案内やベストリーダー（貸出しランキング）、ベストリクエスト（予約ランキング）などを掲示

⁹ Web にアクセスする時の入り口となる Web サイトのこと

➤経営情報公開

- ・県立図書館の運営方針、統計、活動評価などを公開

➤お知らせ

- ・ブログの開設などにより県立図書館及び関連文化施設のイベント情報、ニュース、生活情報等を掲示

➤メールによる情報発信

- ・予約確保通知、返却督促通知、レファレンス回答、SDI¹⁰等の利用者の利便性を増す各種案内をメールで送信
- ・資料紹介やイベント案内などを盛り込んだメールマガジンの配信など

➤資料情報サービス

- ・ジャンル別新刊案内の自動通知などを行うことによる利用の促進
- ・書評の公開や同ジャンル書籍の書籍推薦など、各種の資料情報の発信

(3) ネットワーク機能

県立図書館を拠点とした次の図書館情報ネットワークを検討する。

新しい館内ネットワーク

- ・蔵書管理や利用者管理を扱う図書館業務システムと主にインターネットを扱うシステムを柱とした館内ネットワークの構築
- ・管理運営上限られた範囲のユーザーのみ利用できるクローズドネットの区分化、明確化

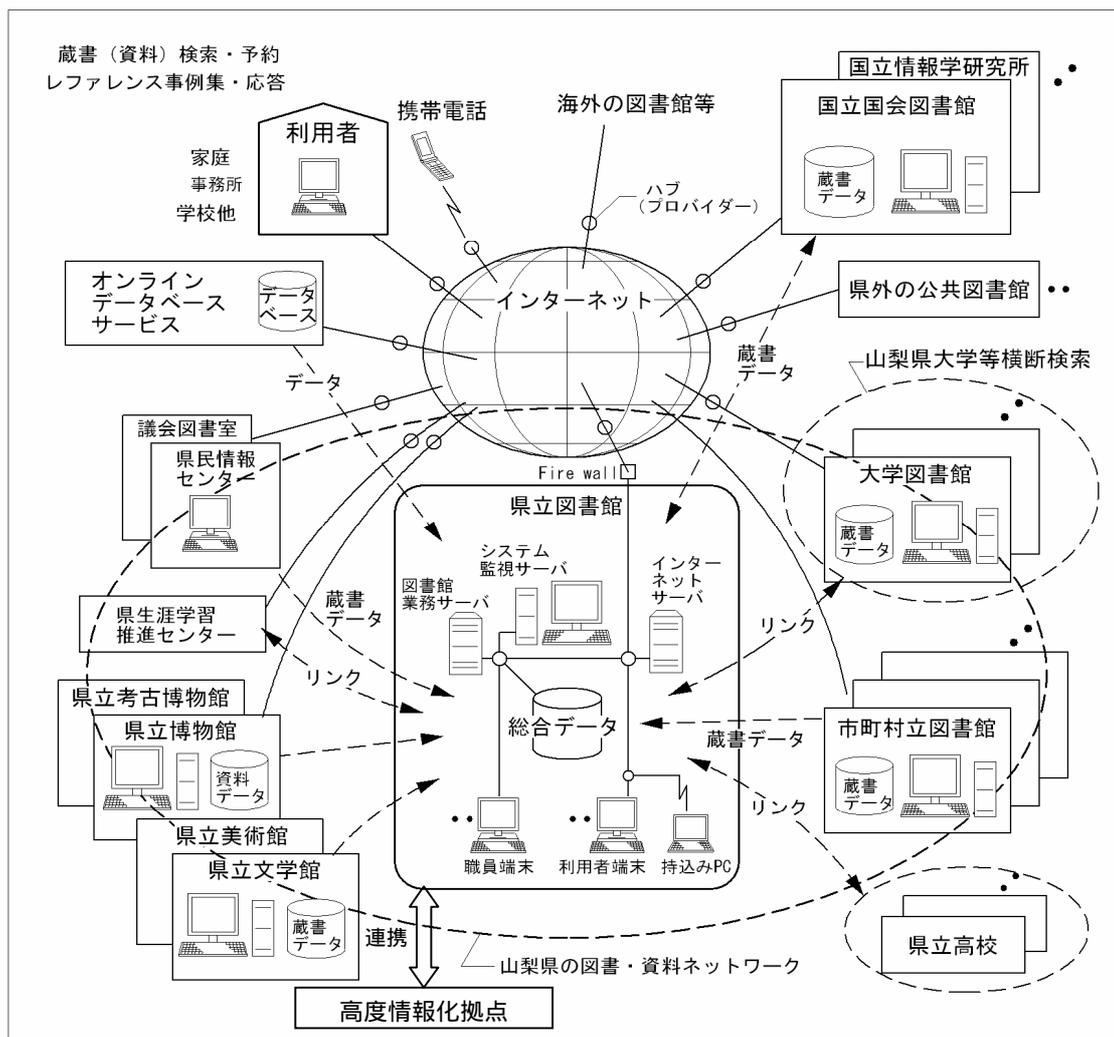
図書館相互のネットワーク

- ・「山梨県図書館情報ネットワーク」の充実
- ・県内の大学図書館や県立高校等の学校図書館の蔵書データのリンクの拡大
- ・国立国会図書館をはじめとした、県外の公立図書館とのネットワークの拡大

県内の他の文化・情報施設とのネットワーク

- ・今後デジタルアーカイブ化が進む資料群を相互に共有できる仕組みづくりの検討
- ・県民情報センターや県議会図書室の資料に対する検索機能の強化

¹⁰ Selective Dissemination of Information : 選択的情報提供サービス



[図 2-3] 新県立図書館情報ネットワークイメージ

(4) 保守体制

ハードウェア、ソフトウェアの双方におけるトラブルに対応するため、常に対応が可能である保守体制を検討する。

2-4 サービスを支える管理運営

(1) 管理運営の方針

資料やサービスの充実・発展に見合うように、機能的で効率的な組織・運営体制の構築が必要である。そのため、今後、具体的な運営計画や課室等の体制を検討していく。

図書館専門職員である司書の能力を活用して様々なサービスの展開を図り、新たなサービスの提供・拡大に向けて民間のノウハウも積極的に取り入れる。これにより充実したサービスを実現していく。

効率的な運営を図るため、建物や設備の保守管理等定型的な施設管理業務に、指定管理者の導入などの検討を行う。

新県立図書館の業務概要（例示）

総務部門	<ul style="list-style-type: none">・ 予算会計・ 職員研修・ 施設の維持・管理、利用許可	<ul style="list-style-type: none">・ 服務、給与・ 館内外の連絡調整（図書館協議会）	<ul style="list-style-type: none">・ 庶務・文書・ 人員管理
企画・協力部門	<ul style="list-style-type: none">・ 運営、企画・ 県内市町村立図書館の支援・ 図書館ボランティアの受入れ・ 教育・文化関連団体等との連携・ 大学や企業など外部との連携・ 図書館見学、インターシップ等の対応	<ul style="list-style-type: none">・ 集会室、展示の運営・ 子ども読書支援	<ul style="list-style-type: none">・ 情報誌発行、広報・ ボランティア団体との連携・ 図書館コンソーシアム・ 調査、統計
情報（ICT）部門	<ul style="list-style-type: none">・ 図書館システム管理・ 図書館情報ネットワーク管理・ ホームページ管理、コンテンツの企画・作成	<ul style="list-style-type: none">・ デジタルアーカイブ事業の推進・ 情報システム活用計画立案	
資料収集・保存部門	<ul style="list-style-type: none">・ 蔵書及び収集の計画の策定・ 資料の選定、収集、受入れ・ 資料データの作成、管理・ 資料の保存		
調査・サービス部門	<ul style="list-style-type: none">・ 利用相談及び案内・ 資料閲覧サービス・ レファレンスサービス・ 視聴覚・PCサービス・ 地域資料サービス・ 障害者や外国人などへのサービス提供と利用支援	<ul style="list-style-type: none">・ 利用登録、貸出・返却・ 複写サービス・ レファレンス・ツールの作成・ 図書館相互貸借・ 児童・青少年サービス	

(2) 業務の効率化等の推進

次の機器等の積極的な導入を検討し効果的に利用することによって、業務の効率化による人的資源の有効活用を進め、利用者サービスの充実と向上を図る。

ＩＣタグ

- ・自動貸出・返却機、貸出処理確認ゲート等と組み合わせた利用により利用の簡便化と資料管理の効率化が実現
- ・蔵書点検時等の作業時間短縮により年間の開館日が拡大

自動貸出・返却機

- ・セルフサービス（利用者の操作）による自動貸出・返却のため、窓口での利用者の待ち時間が縮減
- ・窓口での相談・案内業務の比率を高め、直接の利用者対応サービスが充実
- ・確認ゲートを設置することによって、貸出処理が完了していない資料の持ち出しや、処理漏れの資料などを自動的に確認することが可能

(3) 県民参加の促進

- ・県民に開かれた図書館とするため、積極的にボランティアを受入れる。
- ・ボランティア団体の組織化や活動・運営の支援を行う。
- ・様々なことに利用できる地域活性化（にぎわいづくり）スペースを設置、タイムシェアリングの考え方による活用も検討する。
- ・様々な県民の参加、利用の形態に配慮した開館日、開館時間の設定とする。

(4) サービスの自己評価

- ・サービス向上のための目標を設定し、その達成状況を把握するため、利用者の声を反映した自己点検・自己評価を行う。また、その結果を公開する。

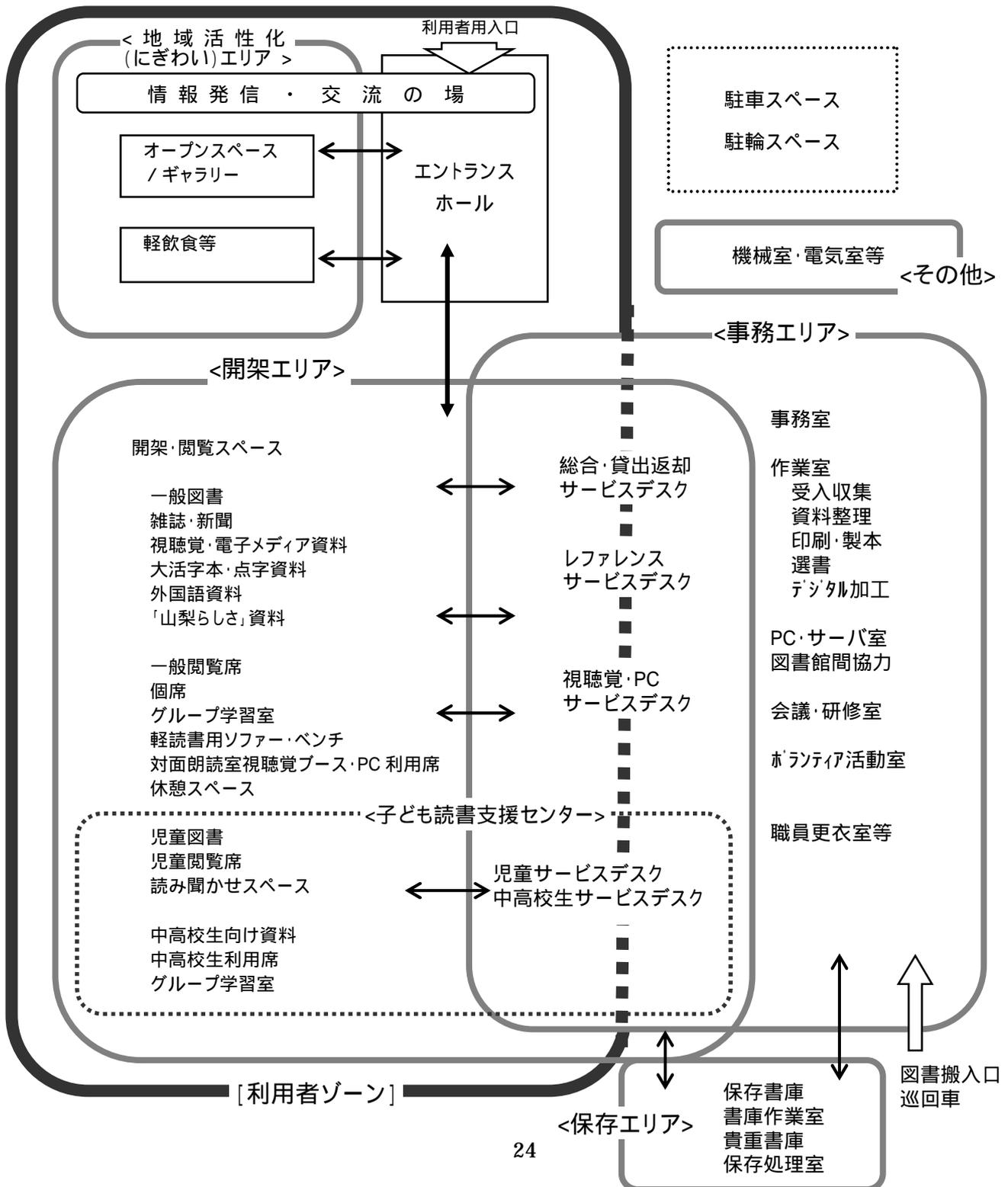
3 新県立図書館の施設概要

3-1 施設の構成と規模

(1) エリア・スペースの構成及び相互関係

前章で述べたサービス計画を展開する場としての施設を計画する。

今後、県立図書館の機能の変化や成長、タイムシェアリングによる利用など、多様な施設活用に対応した可変性、拡張性を備えた計画とする。



<留意点>

開架エリア

読書や調べものができる多様な閲覧スペースを用意する。

レファレンスサービス

必要に応じて複数のサービスデスクを配置し、利用者のプライバシーに配慮したスペースを設置する。

子ども読書支援サービスエリア

読み聞かせのできるスペースや専用のサービスデスクなど、乳幼児から高校生までの年齢層に応じたサービスが提供できる施設構成とする。また、子ども読書支援センターとして読書離れ解消の取り組みを進め、各種相談に応じることができる窓口を設ける。

保存エリア

効率的な保存を意図して集密書架等の導入を検討する。

情報システム関連の諸室

セキュリティを確保し、温度湿度等の管理及び機器荷重に配慮した部屋を設置する。

情報発信・交流の場

県民の誰もが気軽に利用できる多目的スペース（オープンスペース）を設け、軽飲食店等の誘致や、様々なイベントや講演会が行える地域活性化（にぎわい）エリアを設ける。情報発信・交流の場とすることによって高度情報エリアやその周辺ににぎわいを創り出す。

障害者利用・支援

ボランティアなどによる対面朗読や自動音訳、点字図書作成等が行えるスペースを設置する。

その他

ボランティア活動等のためのスペースを充実する。

(2) 各エリアの所要規模

<p>➤開架エリア</p> <p>開架資料スペース 図書：150,000冊 雑誌：950誌、新聞：60紙 視聴覚資料スペース</p> <p>閲覧スペース 閲覧席数：330席（開架450冊に1席） [閲覧席配置例] 個席：40席 一般閲覧席・児童閲覧室：150席 軽読書用ソファ・ベンチ：100席 PC利用席：20席 視聴覚ブース・マイクリーダー席：20人分 グループ学習室：5室 読み聞かせスペース、対面朗読室 休憩スペース（飲食可能なスペース）</p> <p>カウンター廻りスペース（総合、貸出返却、レファレンス、視聴覚・PC、中学・高校生、児童） 通路・その他 利用部門の面積の30%程度</p>	<p>3,000 m²</p> <p>1,100</p> <p>700</p> <p>200</p>
<p>➤保存エリア</p> <p>保存書庫：図書・雑誌・新聞：950,000冊（集密書架等） 視聴覚資料、寄贈資料（図書・雑誌・新聞以外）他 貴重書庫、保存処理室、書庫作業室：各1室</p>	<p>2,500 m²</p>
<p>➤情報発信・交流の場</p> <p>地域活性化エリア（にぎわいエリア） オープンスペース（イベント、研修、上映会、キヤフェー等） 軽飲食等</p>	<p>1,000 m²</p>
<p>➤事務エリア</p> <p>事務室 作業室（資料整理、印刷・製本、選書、デジタル加工等） 図書館間協力 PC・サーバ室 会議（研修）室、ボランティア活動室 その他・倉庫</p>	<p>1,000 m²</p>
<p>➤その他のスペース</p> <p>通路・エントランスホール・トイレ・倉庫等 機械室・電気室等</p>	<p>2,500 m²</p>
<p>➤総合計（延床面積）</p>	<p>10,000 m²</p>

上記数値は、不確定要素を含むため想定数値である。

< 留意点 >

駐車場・駐輪場

駐車場については、高度情報エリア全体の中で検討する。また、図書館利用者の利便性を考慮した駐輪場を整備する。

ユニバーサルデザイン

施設・設備については、「どこでも、誰でも、自由に、使いやすく」というユニバーサルデザインの視点から、誰もが利用しやすい環境をめざした設計とする。

エコロジーへの配慮・エネルギー対策

環境への配慮と、施設の維持管理に要する経費の軽減を図るために、自然エネルギーの利用などの工夫や、屋根や外壁の断熱性の向上を図る工夫など、省エネルギー対策を図る。

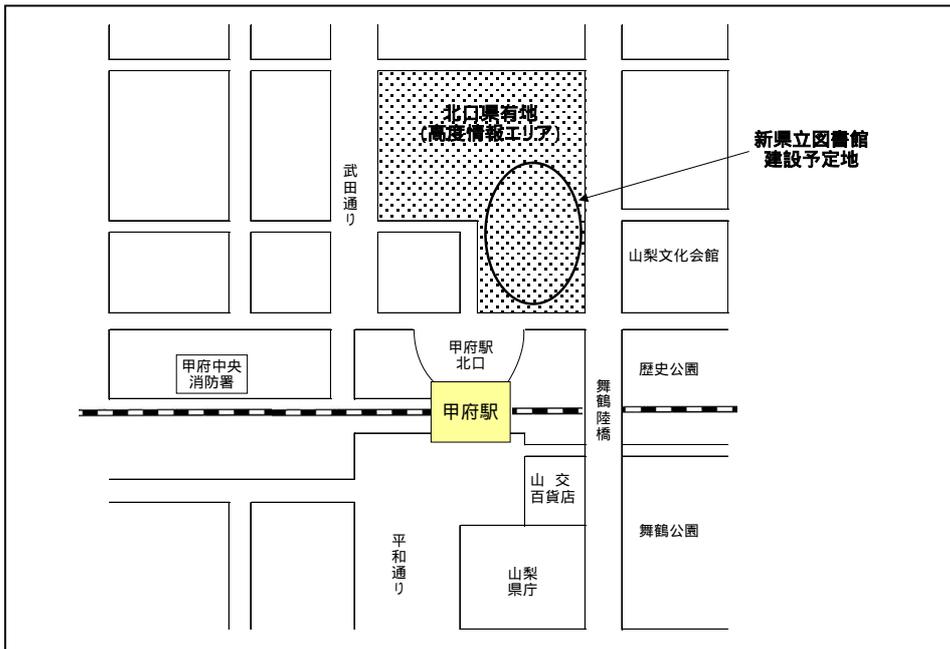
防災・防犯対策

地震時に書架等が倒壊しないような耐震対策や、書庫、サーバ室内の消火設備は、資料・機器類を傷めない消火設備の導入を検討するなど所蔵資料や保有するデータ資産にも十分に配慮した防災対策とする。

4 新県立図書館の整備日程

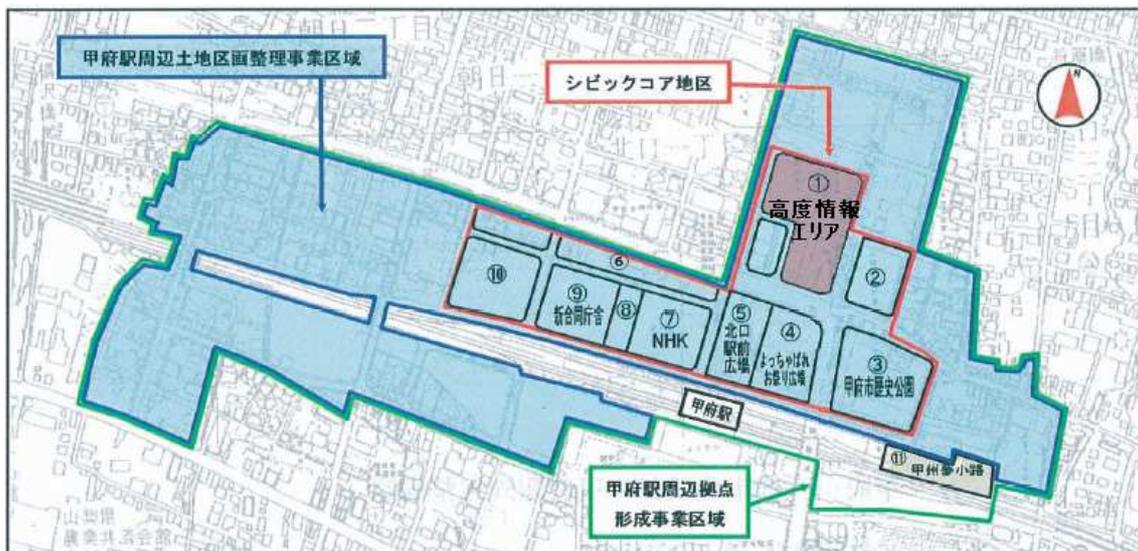
平成20年度後半に設計に着手し、平成22年度に工事着工、平成24年秋の開館を目指して整備を進める。

5 建設地の概要



項目	概要
敷地	北口県有地全体の面積 9,062 m ²
甲府駅北口県有地	用途区分 商業地域、防火地域
↓	建ぺい率 80%
高度情報エリア	容積率 600%
アクセス	J R 甲府駅北口 (徒歩 3 分)
その他	甲府市シビックコア地区整備計画、甲府駅周辺土地区画整理事業地内 () 下図参照

「新都市拠点整備事業の概要」より参照



高度情報エリア (予定) 山梨文化会館 (既存) 甲府市歴史公園
 よっちゃばれお祭り広場 (仮称) 北口駅前広場 官庁サポート系業務施設
 NHK 甲府放送局 中央消防署 新合同庁舎 ペルクラシック甲府 (既存) 甲州夢小路 (仮称)

6 現県立図書館及び他県立図書館の状況

6-1 山梨県立図書館の現状

(1) 沿革

明治 33 年	山梨教育事務所内に山梨教育会附属図書館を開設
昭和 5 年	山梨教育会附属図書館を県庁構内に竣工、移転開館（初代根津嘉一郎氏からの寄付による）
昭和 6 年	山梨教育会附属図書館が山梨教育会から県に寄付され、山梨県立図書館として発足
昭和 26 年	功刀亀内氏旧蔵資料「甲州文庫」を受入（平成 17 年に県立博物館に移管） 分館の設置を開始（昭和 59 年に地元市町に移管。全 4 館）
昭和 28 年	移動図書館「みどり号」巡回開始（～昭和 63 年）
昭和 45 年	6 月、現在の県立図書館が開館
昭和 48 年	一坪図書館 50 館設置（昭和 60 年に市町村移管完了。全 600 館）
昭和 59 年	巡回指導車「ふるさと号」市町村巡回開始
昭和 60 年	梅村紫声氏旧蔵資料「梅村文庫」寄贈
平成 6 年	山梨県図書館情報ネットワークシステム稼動
平成 11 年	山梨県デジタルアーカイブ推進事業実施
平成 12 年	山梨教育会附属図書館設置 100 周年

(2) 施設

現施設開館	昭和 45 年 6 月
所在地	甲府市丸の内 2-33-1
敷地面積	2,623.89 m ²
延床面積	4,249.69 m ²
収蔵能力	約 29 万冊（蔵書数約 64 万点、うち開架資料約 10 万点）
施設	地階 講堂 1 階 ロビー、こども室、視聴覚ライブラリー 2 階 調査研究室 3 階 休憩室 4 階 郷土資料室、学習室、社会情報コーナー 書庫は 6 層の構造となっている。

(3) 資料及び図書購入費

[表 1-1] 蔵書数 (平成 20 年 3 月 31 日現在)

種 別	点 数
図 書	472,048
逐次刊行物	136,040
視聴覚資料	5,805
特殊資料	31,011
総 計	644,904

特殊資料：行政文書、国書、漢籍、地図、紙芝居、マイクロフィルム等

[表 1-2] 図書受入状況

(年度)	H14	H15	H16	H17	H18	H19
年間受入冊数(冊)	12,649	10,619	16,146	14,637	14,532	15,609
うち購入冊数(冊)	9,374	7,277	10,711	9,947	9,754	9,645
資料費決算額(千円)	45,286	44,876	45,605	45,824	45,838	45,672

[表 1-3] 区分別図書購入の状況(平成19年度概数)

区 分	現状購入冊数	備 考
調査研究資料	2,700	参考図書(辞典、事典、統計、図鑑等)、研究書(学術書、論文資料)、研究のための基礎資料
生活応援資料	3,000	日々の仕事や生活に役立つ資料(法律、健康・医療、子育て、ビジネス支援等に必要の実務書)
読書活動支援資料	500	すべての世代の知的欲求に応える資料(時事の論説、教養書、話題作、受賞作等)
児童書	2,000	調べ学習に有効な資料や、優れた創作など幅広い児童向け資料
地域資料類	1,500	地域学の殿堂として必要な資料群 地域活性化、産業振興に役立つ資料 山梨らしさの発信(ワイン、果樹、宝石など)のための資料
合計	9,700	

(4) 利用状況

[表 1-4] 利用状況推移

(年度)	H14	H15	H16	H17	H18	H19
開館日数(日)	291	284	283	283	283	282
入館者数(人)	174,328	166,519	160,904	166,267	166,705	162,335
年間登録者数(人)	2,508	2,204	2,094	2,031	1,878	1,815
貸出点数(点)	87,983	85,038	80,608	80,517	76,155	74,401
調査相談(件)	4,896	4,784	8,219	8,563	8,782	7,645

年間登録者数、貸出点数は個人、団体(図書館、一般団体等)の合計。調査相談は個人からの受付件数

(5) 職員数

[表 1-5] 職員数推移 (4月1日現在)

(年度)	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
専任職員	25(18)	24(18)	23(17)	23(17)	22(16)	22(16)	23(17)
非常勤嘱託	11(7)	10(7)	9(5)	8(5)	8(4)	9(3)	9(1)
臨時職員	1(0)	1(0)	2(0)	2(0)	3(1)	3(1)	2(1)
総計	37(25)	35(25)	34(22)	33(22)	33(21)	34(20)	34(19)

()内数字は司書数

6-2 全国の県立図書館の状況

[表 2-1] 全国の県立図書館の状況

区分	都道府県名	人口 (千人)	施設			資料				利用状況		運営 職員数 (人)
			館数 (館)	延床面積 (㎡)	収蔵能力 (万冊)	蔵書冊数		資料費		図書館等 への貸出 数 (冊)	来館者数 (人)	
						(千冊)	(冊/人)	(千円)	(円/人)			
東京	12,273	3	37,702	354	2,418	0.20	184,249	15.01	121,846	983,062	317	
神奈川	8,693	2	15,681	132	967	0.11	69,017	7.94	103,143	440,845	152	
大阪	8,664	2	37,669	416	2,209	0.25	144,784	16.71	66,647	944,644	175	
愛知	7,107	1	19,604	160	915	0.13	72,966	10.27	15,046	637,822	79	
埼玉	7,020	3	11,658	96	1,395	0.20	92,928	13.24	52,270	619,780	113	
千葉	6,036	3	13,857	134	1,254	0.21	112,758	18.68	84,535	514,114	97	
北海道	5,630	1	8,323	108	852	0.15	52,563	9.34	41,540	67,127	43	
兵庫	5,577	1	8,129	50	531	0.10	58,000	10.40	17,012	160,187	41	
福岡	5,028	1	11,214	90	673	0.13	71,175	14.16	9,564	374,047	55	
静岡	3,776	1	8,696	65	613	0.16	98,165	26.00	9,053	246,843	45	
茨城	2,989	1	8,701	77	759	0.25	87,947	29.42	68,920	727,517	49	
広島	2,871	1	6,524	100	652	0.23	47,859	16.67	5,565	250,065	27	
京都	2,566	2	21,221	183	1,158	0.45	59,465	23.17	18,129	380,854	71	
新潟	2,438	1	8,845	87	659	0.27	37,000	15.18	3,784	237,074	35	
宮城	2,345	1	18,101	150	964	0.41	73,519	31.35	24,451	549,601	81	
長野	2,191	1	8,614	80	660	0.30	58,516	26.71	6,593	231,243	38	
平均	5,325	1.56	15,284	143	1,042	0.22	82,557	17.76	40,506	460,302	89	
岐阜	2,105	1	25,206	110	880	0.42	141,951	67.44	14,566	761,022	56	
福島	2,101	1	9,017	100	763	0.36	45,608	21.71	6,976	252,146	37	
群馬	2,020	1	6,692	82	697	0.35	51,471	25.48	8,706	395,826	48	
栃木	2,009	2	8,320	85	998	0.50	41,854	20.83	9,774	277,934	55	
岡山	1,955	1	18,193	230	850	0.43	223,565	114.36	17,465	1,009,337	92	
熊本	1,859	1	9,410	100	676	0.36	40,661	21.87	3,928	244,225	41	
三重	1,857	1	5,332	108	750	0.40	32,053	17.26	9,601	373,169	41	
鹿児島	1,760	2	12,024	65	805	0.46	43,160	24.52	29,416	674,314	52	
山口	1,499	1	8,471	61	709	0.47	52,478	35.01	12,580	203,012	31	
長崎	1,495	1	4,952	60	771	0.52	72,133	48.25	27,726	418,493	37	
愛媛	1,487	1	4,692	42	567	0.38	30,572	20.56	1,268	295,853	18	
青森	1,460	1	9,886	100	812	0.56	66,512	45.56	5,776	420,580	45	
奈良	1,430	1	11,821	100	491	0.34	-	-	4,145	498,414	46	
岩手	1,388	1	10,590	153	632	0.46	78,318	56.43	2,578	533,769	74	
沖縄	1,382	3	7,163	79	582	0.42	34,991	25.32	686	222,252	42	
滋賀	1,365	1	12,660	143	1,164	0.85	118,864	87.08	49,181	-	42	
平均	1,698	1.25	10,277	101	759	0.46	71,613	42.11	12,773	438,690	47	
大分	1,222	1	11,142	160	1,005	0.82	71,493	58.50	18,322	562,569	38	
山形	1,212	1	6,085	90	542	0.45	35,337	29.16	4,279	203,139	40	
宮崎	1,172	1	9,729	80	577	0.49	49,693	42.40	306	565,902	45	
石川	1,171	1	8,460	68	666	0.57	42,320	36.14	7,378	174,861	48	
秋田	1,156	1	12,446	150	681	0.59	45,653	39.49	13,742	405,897	46	
富山	1,115	1	7,776	92	653	0.59	54,087	48.51	15,955	196,399	33	
和歌山	1,062	2	12,084	125	737	0.69	65,017	61.22	3,092	454,678	42	
香川	1,026	1	9,562	122	785	0.77	55,815	54.40	7,247	565,183	47	
山梨	879	1	4,250	30	461	0.52	45,824	52.13	4,588	166,705	37	
佐賀	872	1	4,277	59	562	0.64	59,600	68.35	6,302	359,448	43	
福井	821	2	20,015	208	957	1.17	100,670	122.62	15,961	770,479	42	
徳島	816	1	8,989	130	1,071	1.31	69,486	85.15	25,831	581,171	44	
高知	799	1	3,896	30	520	0.65	34,877	43.65	5,611	275,510	30	
島根	745	1	5,692	43	637	0.86	43,884	58.90	2,978	199,532	31	
鳥取	610	1	8,694	100	843	1.38	106,472	174.54	29,505	348,706	42	
平均	979	1.13	8,873	99	713	0.77	58,682	65.01	10,740	388,679	41	
全国平均	2,703	1.32	11,533	115	841	0.48	71,203	41.11	21,565	429,899	59	

『日本の図書館2007』(社)日本図書館協会)より

- * 複数館ある県の数値は、各項目とも合計値
- * 職員数に含まれる臨時職員・非常勤、委託・派遣職員は、年間実働時間を人数に換算している。(1)
- * 図書館等への貸出数は、市町村立図書館等から特定の指定があって貸し出した資料数
- * 区分は47都道府県を人口規模順に (219万人以上)、(130万人以上219万人未満)、(130万人未満)としている
- * 資料費の平均及び全国平均に奈良県は含まない。
- * 来館者数の平均及び全国平均に滋賀県は含まない。

6-3 人口類似県の状況

32 ページで区分した人口グループで、山梨県の入る「グループ」について詳細な状況をまとめると以下のとおりとなる。

[表 3-1] 人口類似県の県立図書館の施設・資料・利用状況・運営など

都道府県名	人口 (千人)	施設		利用状況						利用状況			運営	
		開館 (年)	延床面積 (㎡)	蔵書冊数 (千冊)	年間受入冊数 (冊)	雑誌受入種数 (種)	新聞受入種数 (種)	資料費 (千円)	特徴ある資料・情報提供	資料貸出数 個人貸出数 (千点)	図書館等への貸出数 (冊)	来館者数 (人)	職員数 (人)	うち臨時職員等 (人)
大分	1,222	H7	11,142	1,005	36,598	1,585	79	71,493		1,017	18,322	562,569	38	9
山形	1,212	H2	6,085	542	14,951	960	30	35,337		124	4,279	203,139	40	20
宮崎	1,172	S63	9,729	577	16,599	509	53	49,693	¹ みどりに関する資料	380	306	565,902	45	17
石川	1,171	S41	8,460	666	23,904	951	49	42,320		119	7,378	174,861	48	18
秋田	1,156	H5	12,446	681	18,533	1,373	65	45,653	² デジタルライブラリー	311	0	405,897	46	19
富山	1,115	S44	7,776	653	21,317	1,940	52	54,087		189	15,955	196,399	33	7
和歌山	1,062	H5	12,084	737	26,732	1,133	29	65,017	³ 木の文化	455	3,092	454,678	42	18
香川	1,026	H6	9,562	785	22,566	3,018	27	55,815		931	7,247	565,183	47	30
山梨	879	S45	4,250	461	14,532	660	41	45,824		70	4,588	166,705	37	15
佐賀	872	S38	4,277	562	17,578	481	18	59,600		152	6,302	359,448	43	18
福井	821	H15	20,015	957	41,277	1,167	76	109,670	⁴ 環日本海コーナー	845	15,961	770,479	42	9
徳島	816	H2	8,989	1,071	26,040	1,434	90	69,486	⁵ 橋と川	962	26,831	581,121	44	17
高知	799	S48	3,896	520	19,603	841	49	34,877		193	5,611	275,510	30	7
島根	745	S43	5,692	637	22,421	1,223	50	43,884		170	2,978	199,532	31	14
鳥取	610	H2	8,694	843	36,852	1,140	63	106,472	⁶ 鳥・紙コレクション	373	29,505	348,706	42	17
平均	979		8,873	713	23,967	1,228	51	58,682		419	9,824	388,679	41	16

- * 「日本の図書館2007」および「図書館雑誌2007年8月号」((社)日本図書館協会)による
- * 複数館ある県の数値は、各項目とも合計値
- * 職員数のうち、臨時職員・非常勤、委託・派遣職員は、年間実働時間を人数に換算している(1)
- * 図書館等への貸出数は、市町村立図書館等から特定の指定があつて貸し出した資料数
- * 開館年は中央館の数値を示す
- * 「: : :」は、各項目の上位3県(数値の大きいものから1~3番)を示す

- 1 「みどりに関する資料」: 太陽とみどりの国みやぎのイメージにあつた自然や環境に関する資料を収集している
- 2 「デジタルライブラリー」: 所蔵する貴重資料・秋田県の祭りや民話の資料・郷土雑誌・刊行パンフレット等のデジタルデータを画像配信システムにより提供
- 3 「木の文化」: 木の国・和歌山県の理解を深めるために木の文化に関連する資料を収集している
- 4 「環日本海コーナー」: 環日本海地域に関する資料を収集。中国語・朝鮮語・ロシア語の資料も含む(約1万冊)
- 5 「橋と川」: 徳島県が多数の有名な橋と川を有しているという観点から川や橋に関連する資料を収集している(約3,500冊)
- 6 「鳥・紙コレクション」: 鳥取に関わりの深い鳥と和紙に関連する資料を収集している(約1,600冊)

6-4 最近の新築県立図書館の状況

(1) 理念・目指す方向・基本的な性格・役割・機能等及び特徴

[表 4-1]では、最近新築された府県立図書館 10 館について、建設時の基本構想・基本計画や図書館要覧から特徴をまとめた。

県立図書館の機能として共通してうたわれていることは、資料・情報を収集・保存する機能、県民へ資料情報提供する機能（直接サービス）、県域図書館ネットワークの要となつて市町村立図書館を支援（あるいは相互協力）・補完する機能（間接サービス）である。また、多様なニューメディア資料やインターネットを活用した情報サービスの充実も、目指す方向として共通している。

地域情報の中核拠点としての役割を強調しているところも多いが、県によっては他館と役割分担をしている。例えば、奈良県立図書情報館は 1 館で奈良の歴史・文化の専門図書館としての機能を併せ持つが、京都府立図書館は府立総合資料館と連携して京都に関する資料・情報を発信している。また、福井県立図書館は地域の行政文書等を保存する公文書館を併設し、大分県立図書館は、同じく公文書館と、歴史資料を収集し、展示や出版活動も行う先哲史料館を併設して、来館者の利便性を高めている。

一方、宮城県図書館や岐阜県図書館は「県民の交流の場」となることを強調している。

グローバル化の進展、環境や生活の質の重視などから、我が国は知識情報化社会に向かっている。最近の新築図書館の動向からは、図書館は限られた利用者層に提供可能な範囲でサービスをするだけでなく、すべての人に必要としている知識・情報を提供し、地域振興や産業振興につなげていく、知識・情報の社会的基盤であることを求められていることがわかる。具体的には、情報拠点としての収集・保存機能の強化、提供にあたってのサービスの多様化、地域の課題への対応など、時代の変化に即した図書館の理念・役割・機能を持つことが必要とされている。

[表 4-1] 最近新築された県立図書館の特徴

施設名	特徴
岩手県立図書館	<p>県立図書館は、資料の収集・保存・提供、市町村立図書館の支援、生涯学習機会の提供を目的に、県の合同庁舎である「いわて県民情報交流センター」内に設置。県立図書館として、全国で初めて指定管理者制度を導入した。</p> <p>URL : http://www.library.pref.iwate.jp/index2.html</p>
奈良県立図書館情報館	<p>様々な情報機器やマルチメディアが活用できるスペースの設置、インターネット端末50台の提供、電子メールによる新着情報の通知など、ITを活用した情報提供サービスに力を入れている。市町村立図書館との役割分担の考え方から児童室は設置していない。</p> <p>URL : http://www.library.pref.nara.jp/index.html</p>
岡山県立図書館	<p>岡山市内中心部という立地条件や、2億円を超える全国一の資料費による資料の充実などにより、年間100万人の来館、100万冊の貸出といった高い利用実績を示している。高度な横断検索による県域の図書館ネットワークシステムの整備や「デジタル岡山大百科」などに見られる電子図書館の取組にも積極的である。</p> <p>URL : http://www.libnet.pref.okayama.jp/</p>
福井県立図書館	<p>周辺の豊かな自然環境と広大な敷地を活かした「緑の中の庭園図書館・文書館」をコンセプトとする。1階の同一フロアにすべての閲覧スペースをまとめ、30万冊を開架とするなど、市町村立図書館支援とともに、直接来館する利用者へのサービスにも力を入れている。県が運営する無料のバスが福井駅から30分間隔で運行されている。</p> <p>URL : http://www.library.pref.fukui.jp/</p>
京都府立図書館	<p>旧館と同じ場所での建て替えて、広い敷地が求められなかったため、自動化書庫(40万冊)や電動集密書庫(100万冊)を導入するなど効率的な収納を行っている。貴重資料のデジタル化にも早くから取り組んでいる。市町村立図書館との役割分担の考え方から児童室は設置していない。</p> <p>URL : http://www.library.pref.kyoto.jp/</p>
茨城県立図書館	<p>県民の高度化・多様化する学習ニーズに応える「明るく便利な開かれた図書館」をめざし、図書館ボランティアを積極的に受け入れている。200人を超える登録者により、対面朗読、録音テープ作成、おはなし会の開催など様々なサービスが提供されている。</p> <p>URL : http://www.lib.pref.ibaraki.jp/home/index.htm</p>
宮城県図書館	<p>住宅、ホテル、大学、研究機関等が集まる、仙台市北部の丘陵地「泉パークタウン」に立地する大規模な郊外型図書館。6万点を超える古典籍を所蔵し、特に貴重なものはデジタル化して、インターネットで公開している。</p> <p>URL : http://www.library.pref.miyagi.jp/</p>
大阪府立中央図書館	<p>大阪府で3位の人口を有する東大阪市に立地。生涯学習時代の大型図書館として、府内市町村立図書館への支援や高度なレファレンスサービスの提供を行っている。ビジネス支援、大阪資料や古典籍の提供を中心とする中之島図書館と役割分担を行っている。</p> <p>URL : http://www.library.pref.osaka.jp/central/index3.htm</p>
岐阜県図書館	<p>「全県域の中核図書館」としての役割を果たすとともに、県民が気軽に利用し、楽しく交流できる「情報の大衆ふれあい広場」として来館者へのサービスも重視している。2階には世界分布図センターを設け、他館にない個性的な資料の収集に力を入れている。</p> <p>URL : http://www.library.pref.gifu.jp/</p>
大分県立図書館	<p>図書館に公文書館、史料館を併設することで施設の多機能化を図り、県民に開かれた、総合的な情報センターとしての役割を果たす。「一村一館」体制が確立されるよう、市町村立図書館の振興に力を入れ、全県的な図書館サービスの提供に努めている。</p> <p>URL : http://library.pref.oita.jp/</p>

[表 4-2] 最近新築された県立図書館の規模・施設内容など

図書館名 開館(年)	人口 (千人)	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	施設形態・構成	構造	収蔵能力 (万冊)	蔵書冊数 (万冊)	施設内容
岩手県立図書館 H18	1,388	9,000	10,590	複合施設名「いわて県民情報交流センター」 全体面積 45,875㎡ 他施設:県立大学キャンパス等	全体構造 地下1階、地上9階 図書館部分 3階、4階	153	63	[全体施設] ホール(507席)、ギャラリー、会議室、 研修室、スタジオ、飲食店、喫茶店、 コンビニエンスストアほか [図書館施設] ミニシアター(78席)
奈良県立図書情報館 H17	1,430	31,638	11,821	単独	地下1階、地上3階	100	49	交流ホール(220席)、セミナールーム、 LLルーム、メディア編集室、 デジタルスタジオ、喫茶・軽食コーナー ほか
岡山県立図書館 H16	1,955	13,277	18,193	単独	地下1階、地上4階	230	85	多目的ホール(120席)、研究室、 サークル活動室、メディア工房、 デジタル情報シアター、軽食・ 喫茶コーナーほか
福井県立図書館 H15	821	69,567	15,317	複合 全体面積 18,436㎡ 他施設:文書館(3,119㎡)	全体構造 地下1階、地上5階	190	69	[共用施設] 多目的ホール(200席)、研修室、 小集会室
京都府立図書館 H13	2,566	3,740	7,478	単独・リニューアル 旧館正面の外観のみ残し建て替え	地下2階、地上3階、 塔屋1階	150	82	スタジオ、視聴覚室
茨城県立図書館 H13 三の丸書庫 H7	2,989	2,647 1,638	8,701 758	単独・転用リニューアル 旧県議会議事堂を改修	本館 地下1階、地上3階、 塔屋1階 書庫 地上2階	77	76	視聴覚ホール(160席)、ギャラリー、 会議室
宮城県図書館 H10	2,345	55,279	18,101	単独	地下1階、地上4階	150	96	ホール(250席)、ミニシアター(94席)、 生涯学習室、地域情報発信室、展示室、 会議室、ラウンジ、レストラン
大阪府立中央図書館 H8	8,664	18,500	30,771	単独	地下2階、地上4階、 塔屋1階	350	168	ホール(380席)、会議室、レストラン、 喫茶室
岐阜県図書館 H7	2,105	22,074	25,206	単独	地下1階、地上2階、 塔屋1階	110	88	多目的ホール(296席)、ハイビジョン シアター(91席)、研修室、特別会議室、 世界分布図センター、情報工房、 レストラン
大分県立図書館 H7	1,222	15,410	11,142	複合 施設名「豊の国情報ライブラリー」 全体面積 23,002㎡ 他施設:公文書館、先哲史料館	全体構造 地下1階、地上6階 図書館部分 地下1階～地上3階	160	101	[図書館施設] 学習室 [公文書館施設] 会議室(8室) [共用施設] 視聴覚ホール(226席)、 喫茶室、研修室
山梨県立図書館 S45	879	2,624	4,250	単独	地下1階、地上4階	30	46	講堂(163席)

[表 4-3] 最近新築された県立図書館の資料・利用状況・運営など

都道府県名	人口 (千人)	施設		利用状況						利用状況			運営	
		開館 (年)	延床面積 (㎡)	蔵書冊数 (千冊)	年間受 入冊数 (冊)	雑誌受 入種数 (種)	新聞受 入種数 (種)	資料費 (千円)	特徴ある 資料・情 報提供	資料貸出数		来館者数 (人)	職員数	
										個人貸 出数 (千点)	図書館等 への貸出 数 (冊)		うち臨 時職員 等 ¹ (人)	
岩手	1,388	H17	10,590	632	23,349	3,762	270	78,318	¹ 賢治文庫 啄木文庫	306	2,578	533,769	74	65
奈良	1,430	H17	11,821	491	16,471	2,065	63	-	² 戦争体験文庫	236	4,145	498,414	46	22
岡山	1,955	H16	18,193	850	67,368	2,423	141	223,565	³ デジタル岡山大 百科	1,107	17,465	1,009,337	92	52
福井	821	H14	20,015	957	41,277	1,167	76	100,670	⁴ 環日本海コ ナ	845	15,961	770,479	42	9
京都	2,566	H12	21,221	1,158	25,880	1,957	102	59,465		204	18,129	380,854	71	21
茨城	2,989	H12	8,701	759	32,960	1,810	90	87,947		849	68,920	727,517	49	16
宮城	2,345	H10	18,101	964	18,682	2,310	153	73,519		958	24,451	549,601	81	42
大阪	8,664	H7	37,669	2,209	65,688	4,875	395	144,784		1,063	66,647	944,644	175	74
岐阜	2,105	H7	25,206	880	36,792	2,293	62	141,951	⁵ 世界分布図セ ンター	995	14,566	761,022	56	18
大分	1,222	H6	11,142	1,005	36,598	1,585	79	71,493		1,017	18,322	562,569	38	9
平均	2,549		18,266	991	36,507	2,425	143	109,079		758	25,118	673,821	72	33

- * 「日本の図書館2007」および「図書館雑誌2007年8月号」(社)日本図書館協会)による
- * 複数館ある府県の数値は、各項目とも合計値
- * 職員数のうち臨時職員等(臨時職員・非常勤・委託・派遣職員)は、年間実働時間を人数に換算している(1)
- * 図書館等への貸出数は、市町村立図書館等から特定の指定があって貸し出した資料数
- * 開館年は中央館の数値を示す

- 1 「賢治文庫」「啄木文庫」:宮沢賢治と石川啄木に関する資料を、著書から伝記、研究資料まで網羅的に収集している
また、「賢治資料展」「啄木資料展」を定期的で開催してその資料を紹介している
- 2 「戦争体験文庫」:戦中戦後の体験に関する資料群で、全国からの寄贈による(約5万点)
- 3 「デジタル岡山大百科」:岡山の郷土資料(動画・写真・音声・文字情報など)をインターネットで見ることができる電子図書館システム(コンテンツ約5万件)
- 4 「環日本海コナ」:環日本海地域に関する資料を収集 中国語・朝鮮語・ロシア語の資料も含む(約1万冊)
- 5 「世界分布図センター」:国内外で作成された自然・経済・文化などの主題に基づく多種多様な分布図・地図を収集
閲覧・展示と共にデジタルデータによる提供も行う(開架資料:約1万1千点)